

## 目次

1. WebRCP .....	2
1.1. 配信の仕組み .....	2
2. サンプルで学ぶ .....	3
2.1. 環境設定 .....	3
2.2. ディレクトリ構成 .....	4
3. 参考資料 .....	5
4. 最後に .....	6

## 1. WebRCP

WebRCP は Eclipse RCP(Rich Client Platform)で作成したアプリケーションを Java Web Start で配信するためのフレームワークです。

Swing だとアプリケーションが重い、開発効率が上がらないといった理由で、いまいち普及していない Java Web Start ですが、Eclipse RCP を使用することで効率よく開発が行え、SWT(Standard Widget Toolkit)による軽いアプリケーションが実現できればこの状況も変わってくるかも知れません。

本資料では、WebRCP のサンプルを使用して、配信の仕組みと使用方法について見ていきます。

### 1.1. 配信の仕組み

まず WebRCP の配信時の動作について説明します。

Eclipse RCP は SWT を使用するため軽快に動作しますが、SWT では OS のネイティブ API を使用するため、環境に応じて SWT のライブラリをインストールする必要があります (Windows 環境では dll、Linux/Solaris 環境では so)。WebRCP ではこの SWT のライブラリのインストールを自動化するため、“os.name”、“os.arch”といったシステムプロパティで OS を判断し、アプリケーションの展開に先立ち、必要な SWT ライブラリをダウンロードします。

その後アプリケーションを展開し。。。という流れは通常の Java Web Start と同様です。

## 2. サンプルで学ぶ

### 2.1. 環境設定

本資料では Tomcat5 に WebRCP を組み込んで利用するので、まずは Tomcat をインストールしてください。

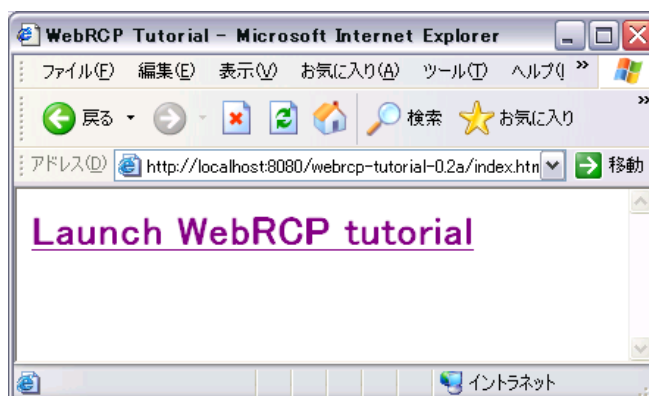
インストール後に Tomcat の webapps ディレクトリ配下に webrcp-tutorial-0.2a.war をコピーするとアプリケーションがインストールされサンプルアプリケーションが利用可能になります。(設定によっては Tomcat の再起動が必要です。)

今回使用した環境を以下に示します。

バージョン	OS	WindowsXP XP2
	JavaVM	J2SE 1.4.2_06
	Tomcat	5.0.28
	WebRCP	0.2a

アプリケーションがインストールされたら、以下の URL にアクセスします。

<http://localhost:8080/webrcp-tutorial-0.2a/index.html>

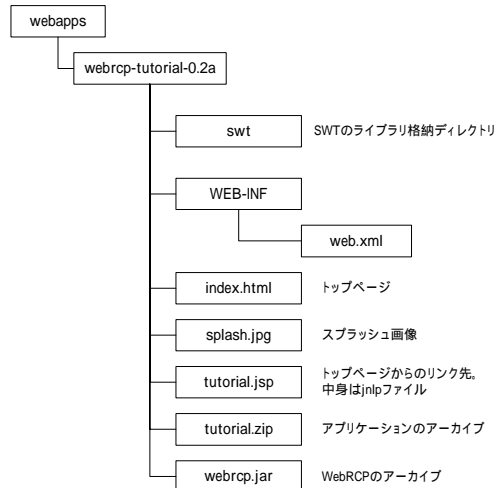


[Launch WebRCP tutorial] のリンクをクリックすると、Java Web Start が起動し、Eclipse RCP アプリケーションが起動します。



## 2.2. ディレクトリ構成

サンプルのディレクトリ構成は以下のようになっており、SWT のライブラリ、アプリケーションのアーカイブ、スプラッシュ画像といったアプリケーションに必要なファイルが展開されています。



構成は通常の Web アプリケーションと変わらないので、この中でポイントとなる設定ファイル(tutorial.jsp)について説明します。

### (1) 設定ファイル(tutorial.jsp)

拡張子は jsp となっており、一部 Java のコードが含まれますが、中身は通常の jnlp ファイルとほぼ同じです。

通常の jnlp ファイルと異なる部分としては

- WebRCP から起動するため<application-desc>タグに定義がない
- WebRCP に必要な定義は<property>タグで行う

といった点になります。

WebRCP 独自の<property>タグで行う設定内容について以下に示します。

プロパティ名	説明	必須	備考
webrcp.appName	アプリケーション名		
webrcp.appVersion	バージョン		
webrcp.archives	アプリケーションのアーカイブファイル。ここで指定した“名称”+“zip”がクライアントに展開される。		サンプルでは“tutorial”を指定しているため、“tutorial.zip”が展開される。
webrcp.sysArchives	アプリケーションに必要なアーカイブファイルのディレクトリ		サンプルでは“swt”を指定しているため swt は以下にあるアーカイブファイルが展開されます。
webrcp.singleInstance	アプリケーションの複数起動を許可するかどうか		true:複数起動不可、false:複数起動可
webrcp.splashScreen	起動時にスプラッシュ表示する画像ファイル		
eclipse.application	WebRCP により起動される RCP アプリケーションのメインクラス。 IPlatformRunnable インタフェースを実装している必要がある。		

### 3. 参考資料

- WebRCP プロジェクトページ(<http://sourceforge.net/projects/webrcp/>)

## 4. 最後に

サンプルを中心に WebRCP 見てきましたが、いかがでしたでしょうか。それほど複雑なものでもないのに、基本動作、使用方法について理解いただけただけなのではないかと思います。

最近特に話題の多いリッチクライアント分野ですが、Eclipse RCP + WebRCP、JDNC、XUL などオープンな技術も出てきており、今年～来年にかけてますます面白くなりそうです。

記述内容に何かお気づきの点、質問等ありましたら下記までご連絡ください。

開発部 横井 朗 yokoi@bbreak.co.jp
-----------------------------------